



## 第 3 部 基本計画



# 重点プロジェクト

第1次総合計画では、町の将来像を「やすらぎづくり～日本一の暮らしやすさを目指して～」と設定し、施策を展開してきました。住民アンケート調査、住民ワークショップ等における町民の評価では、「子育て支援」、「幼児・学校教育の充実」、「上・下水道の整備」などの項目で高い評価を得ました。しかし一方で、本町が今後とも重点的に取り組む必要のあるものとして、「商工業の振興」、「農林業の振興」、「観光の振興」をはじめとする産業の振興や「鉄道やバスなど公共交通機関の充実」、「保健・医療の充実」などの項目が挙げられています。

本計画では、第1次総合計画で高評価を得た取り組みを一層推進するとともに、課題として挙げられている各項目に対する取り組みを強化、推進するために、「自然・歴史・文化を活かした『にぎわい』づくり～子どもたちの未来へ伝統や安心をつなげて～」を将来像と定め、特に産業の振興による「にぎわいの創出」を主とし、優先的な予算配分のもと、重点的に力を入れていく施策分野を重点プロジェクトとして掲げます。また、重点プロジェクトを推進するためには、計画段階において、PPP/PFI<sup>※12</sup>の活用など、経費削減を図り、より効果的な整備方法を検討します。

重点プロジェクトは、行政とともに、町民、企業など町全体で一定の方針のもと取り組む施策の構成となっています。

## 『にぎわい』創出プロジェクト 1 いちかわみさと学び舎づくり

県立市川高校は、峡南地域の県立高校再編により、新たに総合制高校として生まれ変わります。新設校は、普通科、工業科、商業科で構成する単位制総合制高校とされ、定員は県内最大規模となります。

生徒が安心して通学できる主要道路の改良・改修に努め、県をはじめ近隣市町村と連携した公共交通アクセスの強化を進めるほか、地域で行う美化活動や生涯学習活動への協力など、生徒たちが本町のまちづくりに参画する環境を整備します。市川高校の文化や伝統を引き継ぎ、地域に根差し、愛され続ける高校となるため町民・企業・行政が連携し、生まれ変わる「市川ファミリー」を支援します。

また、新設校の整備に必要な敷地面積の確保に伴い、現在の県立市川高校周辺にある本町の公共施設の再整備が必要となります。

町民の生涯学習の拠点となる（仮称）生涯学習センターと町立図書館、健康増進・体力づくり・生涯スポーツによる地域交流の拠点となる町民体育館、子育て環境・子育て支援の拠点となる町立保育所等の施設整備を進めます。

※12 PPP/PFI：PPPとはPublic Private Partnership の略で、公民が連携して公共サービスの提供を行うことをいいます。PPP の中には、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営（DBO）方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれます。  
PFI とはPrivate Finance Initiative の略で、民間の資金や経営手法・技術力を活用して公共施設などの社会資本を整備することをいいます。

これらの施設は、さまざまな角度からの検討を行い、幼児から高齢者、子育て世代など、より多くの町民が利用しやすい施設の方向性を示すとともに、地域の実情に即した計画とし、将来にわたり、町民に愛され、親しまれる公共施設を目指します。

#### 【主な事業】

- 新設県立高校との連携推進
- 高校再編に伴う公共施設の整備

## 『にぎわい』創出プロジェクト 2 いちかわみさとに寄ってけし・泊まってけし

2020(平成32)年の東京オリンピック・パラリンピックの開催やリニア中央新幹線の運行開始などにより、国内外の観光客を中心としてさらなる交流人口の増加が見込まれています。本町では、多様化する観光ニーズに対応するために、農産物や特産品を購入できる「直売所」、のっぴい野菜などの地元食材を提供する「飲食施設」、伝統産業等を中心に魅力を体験できる施設、また、本町の魅力に触れながら滞在できる宿泊施設の整備など、交流拠点の整備が求められています。また、これらの施設には、本町の魅力を日本全国、世界へと広く知ってもらうための情報発信の役割も求められます。

これらの施設整備については、年間の訪問客数が26万人である三珠地区を中心に検討を進め、実現に向けて取り組みます。

また、本町を通る中部横断自動車道は、静岡県を起点に、本町を經由して長野県までが開通すると、東名高速道路、中央自動車道、上信越自動車道が結ばれ、本州を南北に貫く大動脈となります。

中部横断自動車道の開通は、物流、観光、災害時の広域ルート等、地域活性化に大きく寄与することが期待されます。

そのため、中部横断自動車道の六郷インターチェンジ開通と将来の高速道路網の発展を見据えて、町の特産品や農産物等を手軽に購入し食すことで本町の魅力が体験でき、合わせて町民の憩いの場となるような交流拠点の整備の検討を進めます。

これらをさまざまな主体・分野の協力を得るなかで、本町の産業の振興を進め、にぎわいの創出を実現していきます。

#### 【主な事業】

- 三珠地区交流拠点整備の推進
- 六郷インターチェンジ周辺交流拠点整備の検討